

財政学期末試験

(50 点満点)

平成 14 年 7 月 29 日実施

1 以下の文章が正しければ「正」、誤っていれば「誤」と答えなさい。「誤」と答えた文章については、正しい文章に書き換えなさい。(16 点)

1. ベンサム的な価値判断よりもロールズ的な価値判断のほうが、より不平等に関心を持っている。
2. 負の外部性が生じているときには、市場均衡における生産水準は社会的に望ましい水準よりも過小になる。
3. 効用可能性曲線とは、個人の効用が彼の所得にどのように影響されるかを示したものである。
4. 純粋公共財は民間の経済主体によって供給されることが不可能な財である。
5. 実現されたキャピタル・ゲインに対する課税は、キャピタル・ゲインを生む資産を保有する期間を短くする効果がある。
6. コレット＝ヘイグの命題は、余暇と補完的な財の方に高い税率を課すことが望ましいことを主張する。
7. 足による投票の可能性を考えても、居住地が自由に選択できなければ、地方公共財は最適には供給されない。
8. 地方交付税交付金は、地方公共団体の財政力格差を是正する目的で国が地方公共団体に交付するものであり、前年度の赤字額を基準に配分される。

2 計算問題 (6 点)

二人の個人 A、B からなる経済に私的財と公共財が存在するものとする。個人 A と個人 B の効用関数がそれぞれ

$$U_A = z^2 x_A \quad (x_A : \text{私的財消費量}, z : \text{公共財消費量}) \quad (1)$$

$$U_B = z x_B \quad (x_B : \text{私的財消費量}, z : \text{公共財消費量}) \quad (2)$$

で示されるとする。また私的財と公共財の生産可能性フロンティアは、

$$x_A + x_B + z = 40 \quad (3)$$

で示されるとする。このとき、次の問題に答えなさい。

2.1 パレート効率的な資源配分を示すサミュエルソンの条件を求めなさい。

- 2.2 社会厚生関数が $W = U_A U_B$ であるとき、最適な公共財生産量と二個人への私的財分配量を求めなさい。

3 次の2つの小問から1つを選択して解答しなさい。(8点)

- 3.1 効用関数 $U = C_1 C_2$ (U :効用、 C_1 :1期目の消費額、 C_2 :2期目の消費額)を持つある消費者が、1期目には所得400万円を得て消費以外を市場利子率5%で貯蓄し、2期目には元本と利子のすべてを消費する。このとき、(1)この消費者の貯蓄額を求めなさい。(2)所得(利子所得を含む)に対して税率20%の所得税を課したとき、所得税のないときと比較してどれだけ貯蓄額が少なくなるかを求めなさい。
- 3.2 自然独占となる産業について、民間の独占企業が操業する場合よりも社会的余剰を大きくするために政府がとる手段としてどのようなものが考えられるか述べなさい。

4 次の4つの小問から2つを選択して解答しなさい。(20点。1つ解答につき10点。)

- 4.1 社員の公的年金保険料は労働者と企業側がそれぞれ50%ずつ保険料を拠出することになっています。これを企業側が100%負担するように制度の改正を行った場合、労働者は得をするのでしょうか。また、雇用量や賃金率はどう変化しますか。
- 4.2 インフレ率が上昇すると、利子所得への実効税率はどのように変化するか述べなさい。
- 4.3 パローの等価命題について説明しなさい。
- 4.4 国が廃棄物処理施設建設のための補助金を地方自治体に交付することを考えます。(1)用途を特定しない補助金を50億円交付する、(2)施設建設に用途を限定した補助金を50億円交付する、(3)建設費の8割を補助金として交付する(残りの2割は自治体の負担とする)、の3通りの方法について、自治体の廃棄物処理施設建設のための支出がどのように決定されるかをそれぞれ説明しなさい。